

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会
地上デジタル放送方式高度化作業班（第16回） 議事概要（案）

1 日時

令和4年6月22日(水) 13:30~14:40

2 開催方法

WEB会議での開催

3 議題

- (1) 前回の議事概要の確認
- (2) 映像符号化方式の性能調査等について
- (3) 今後の調査について
- (4) その他

4 出席者（主任、主任代理を除き50音順、敬称略）

【構成員】大槻主任、松田主任代理、伊藤構成員、岩尾構成員、岩田構成員、
上園構成員、大久保構成員、大島構成員、大野構成員、岡野構成員、
岡村構成員、齋藤構成員、高柳構成員、樽見構成員、土田構成員、
豊嶋構成員、中井構成員、中丸構成員、中邨構成員、中村構成員、
沼尻構成員、深澤構成員、藤井構成員、藤高構成員、村山構成員、
森吉構成員、山口構成員、山本構成員

【説明者等】NHKエンジニアリングシステム 井上氏
三菱総合研究所 友部氏

【事務局】情報流通行政局 放送技術課

5 配付資料

- 資料デ高作16-1 地上デジタル放送方式高度化作業班（第15回）議事概要（案）
資料デ高作16-2 映像符号化方式等に関する調査結果【放送サービス高度化推進協会】
資料デ高作16-3 放送設備のIP化・クラウド化の調査について【三菱総合研究所】
資料デ高作16-4 今後の調査について
参考資料1 地上デジタル放送方式高度化作業班 構成員

6 議事概要

(1) 前回の議事概要の確認について

事務局より、前回の議事概要の確認について、資料デ高作16-1に基づき内容の確認が行われた。（質疑なし）

(2) 映像符号化方式の性能調査等について

中村構成員、森吉構成員、伊藤構成員、井上氏より、映像符号化方式の動向調査検討、知的画像処理に関する最新の技術動向調査及び次世代コンテンツ保護方式の調査検討について、資料デ高作16-2に基づき報告が行われた。（質疑なし）
友部氏より、放送設備のIP化・クラウド化の調査について、資料デ高作16-

3に基づき報告が行われ、以下の通り質疑応答が行われた。

(齋藤構成員) マスターシステムの IP 化・クラウド化によるコスト削減等の効果について教えてほしい。

(友部氏) コストに関する効果の定量化は確認できていないが、コアな設備なため、IP 化・クラウド化によって放送事業者はメリットを享受できると考えられる。効果は放送事業者によると考えられる。

(齋藤構成員) マスター設備以外を IP 化・クラウド化する予定はあるのか。

(友部氏) マスター設備をどこまでの範囲とするかにもよるが、スタジオ設備や番組バンクを IP 化・クラウド化している事業者が国内外を問わずあり、まだの事業者においても、順次、対応が進められていくと考える。

(豊嶋構成員) 最近、ロシアで放送がジャックされたニュースがあった。サイバー攻撃の動向についても調査されているので、事例に加えても良いと考える。

(友部氏) サイバー攻撃の動向調査を行った後に発生した事案のため、含まれていない。

(3) 今後の調査について

事務局より、今後の調査について、資料デ高作 16-4 に基づき内容の確認が行われ、以下の通り質疑応答が行われた。

(上園構成員) 既存受信機への影響の調査 (LDM 方式) について、昨年度、ケーブルテレビも伝送試験を行い、結果を作業班で報告している。一部のパラメータでは伝送不可という結果であり、今後パラメータを選定するうえで既存受信機への影響だけでなくケーブルテレビの伝送も考慮する必要があると思うが、どのように考えているのか。

(事務局) 伝送パラメータについては、ケーブルテレビの試験結果で報告された内容も踏まえて検討していく。

(上園構成員) ケーブルテレビにおいては、地上放送高度化方式の伝送試験の結果として、周波数オフセット量により伝送品質へ影響があると報告しており、周波数オフセット量についてもケーブルテレビへの影響を調査する必要があると考える。また、周波数オフセット量の変更例に 0.08MHz 以下と示されているが、0~0.08MHz の範囲で検討する理解でよいか。

(事務局) ケーブルテレビも対象に含めて調査を実施する。周波数オフセット量については、認識のとおり 0~0.08MHz の範囲で検討するものである。

(4) その他

事務局より、次回の作業班は ARIB で実施している技術検討の中間報告を予定しており、次回の作業班の開催は 10 月を想定しているが、詳細等は別途連絡する旨

の説明が行われた。

(以上)